

平成 29 年度第 1 回船橋市博物館協議会会議録

(平成 29 年 7 月 12 日)

- 1 開催日時
平成 29 年 5 月 12 日（金曜日）午後 2 時～午後 4 時 45 分
- 2 開催場所
船橋市飛ノ台史跡公園博物館
- 3 出席者
 - (1) 委員 岡崎委員 日塔委員 中田委員 木原委員 高橋委員
 - (2) 事務局 井上飛ノ台史跡公園博物館長 栗原郷土資料館長補佐
伊藤飛ノ台史跡公園博物館長代理
 - (3) オブザーバー 道上文化課長補佐
- 4 欠席者
佐藤委員
- 5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開にあつては、その理由
 - (1) 平成 29 年度郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の運営方針について 公開
 - (2) 平成 29 年度郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の事業計画について 公開
 - (3) 事業実績（平成 29 年 2 月 10 日から 5 月 11 日まで）について 公開
 - (4) 郷土資料館のリニューアルについて [報告] 公開
 - (5) その他 公開
- 6 傍聴者数
0 名
- 7 決定事項
 - (1) 平成 29 年度郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の運営方針については、了承された。
 - (2) 平成 29 年度郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の事業計画については、了承された。
 - (3) 事業実績（平成 29 年 2 月 10 日から 5 月 11 日まで）については、了承された。

8 議事

○飛ノ台史跡公園博物館長代理

定刻となりましたので、平成 29 年度第 1 回船橋市博物館協議会をはじめさせていただきます。本日は、小川郷土資料館長が都合により不在でございますので、栗原郷土資料館長補佐がご説明申し上げます。

また、本日の次第でございますが、前回 2 月 10 日に開催いたしました博物館協議会から昨日 5 月 11 日までの事業実績について、議事 3 として、追加させていただきました。

この 4 月 1 日付で、両館ともに人事異動がございました。郷土資料館では、菅野副主査が文化課歴史文化財係長に。文化課埋蔵文化財調査事務所より、高木副主査が、中央図書館から伊藤主任事務員が転入して参りました。飛ノ台史跡公園博物館では、宮野館長代理が古和釜小学校長として転出し、丸山嘱託員が総合教育センターへ転出いたしました。私、伊藤がさわやかちば県民プラザより、富澤嘱託員が高根小学校より参りました。それでは、一言ずつではございますが、自己紹介させていただきます。

【伊藤飛ノ台史跡公園博物館長代理】【高木副主査】【伊藤主任事務員】それぞれ挨拶する。

○伊藤飛ノ台史跡公園博物館長代理

本日は、傍聴人はおりません。ただ今より議事に入らせていただきます。本日の協議会出席者は、5 名でございます。委員の半数がご出席しておりますので、船橋市博物館条例施行規則第 9 条第 2 項の規定により、本協議会は成立いたしておりますことをご報告申し上げます。なお、船橋市博物館条例施行規則第 9 条第 1 項の規定により、議事は会長が行うこととなっております。それでは岡崎会長よろしくお願いたします。

○岡崎会長

それでは、議題 1 の平成 29 年度郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館の運営方針について。郷土資料館からお願いいたします。

○郷土資料館長補佐

(運営方針を資料に沿って説明) 郷土資料館は現在、休館中ですが、平成 30 年 1 月の展示リニューアルを成功させることが大きなテーマです。

○飛ノ台史跡公園博物館長

(運営方針を資料に沿って説明) 昨年度から館長として勤めておりますが、施設自体、また備品等が老朽化しておりますので、重点目標を、3 - (2) といたしました。

○岡崎議長

只今両館から説明がありましたが、何か、ご質問等ございましたらお願いいたします。

○各委員

意見・質問は特になし。

○岡崎議長

何もございませんでしょうか。それでは、平成 29 年度の各館の運営方針は了承いたします。次に、議題 2 に移ります。平成 29 年度の事業計画について、両館から説明をお願いいたします。まず、郷土資料館からお願いします。

○郷土資料館長補佐

郷土資料館は、休館中ですが、野外展示として D-51 を展示しています。日曜の午前 10 時から午後 4 時まで、運転席の公開をしております。ボランティアの方が説明や車体の清掃をして下さっています。次に「下総中山駅ジオラマ」の出張展示。こちらは西部公民館にて、現在、通年で行っております。次に企画展①。こちらは船橋市が今年市制 80 周年を迎えるため、市役所内の各課が記念のイベントを実施しておりますが、郷土資料館は昭和 12 年以降の写真を中心とした展示をいたします。併せて、昭和 30 年代の居間を再現し、所蔵する民具を展示いたします。6 月 17 日から 7 月 9 日まで、飛ノ台史跡公園博物館にて開催し、リニューアルオープン時の平成 30 年 1 月～2 月にあたり、郷土資料館にて開催いたします。

次に企画展②の「市民参加型展示」ですが、こちらは、市民にアンケートや聞き取り調査をもとに、展示を構成するというものです。たとえば、一般の方に、タイムマシーンがあったらどの時代に戻りたいとか、記憶に強く残っている思い出などをアンケートによって調べ、地域資料を中心とした展示を行っていくものです。これにより、様々な歴史的な資料の掘り起こしもできるのではないかと考えております。企画展①のあと、年度がまたがりますが、3 月から 5 月を予定しています。企画展③といたしまして、「くらしの道具展 一道具が語るくらしの歴史」。こちらは、毎年小学 3 年生の授業に併せて行っているものです。今年度は、飛ノ台史跡公園博物館にて、1 月 13 日から 2 月 4 日に実施する予定です。

休館中の展示事業ですが、こちらの方は、西図書館と共催で西図書館のギャラリーにて、「西部地区の今昔」の写真展を 3 月 31 日から 4 月 23 日に行いました。すでに終了しております。皆様のお手元にある『西部地区の今昔』に使用した写真をパネルにして展示いたしました。このような、今昔写真の展覧会については、他の地区でもやってほしいというご要望もありますので、今後、順番にやっていきたいと考えております。また、昨年に引き続き、東部公民館と共催で、「津田沼の今昔写真展 PartIV」を東部公民館にて実施いたします。

教育普及活動については、例年実施している「船橋の歴史散歩」や「バス見学会」「文化講演会」も行いますが、リニューアルオープン記念として、2 本講演会を企画しております。1 つは、きららホールにて親子連れが楽しめるような内容の講演を、多摩大学客員教授の河合敦先生に。もう 1 つは、博物館・美術館の歴史を踏まえ、これからの博物館の楽しみ方について立教大学の教授で美術史の川口幸也先生にお願いしています。「学校授業への支援協力」としては、学校側からご要望があれば、打合せの上実施いたします。「移動博物館」につきましては、郷土資料館へ移ってからは、リニューアル準備のため昨年度のように、資料

をお持ちしてという形ではできませんが、資料の貸出で対応したいと考えております。

最後の船橋の今昔写真の展示・貸出は通年で行ってまいります。こちらについては、近年、デイケアセンターなどの高齢者福祉施設での利用が多くなってきており、回想法の実践となりますので、今後も力を入れていきたいと考えております。

収蔵関係につきましては、通常通りに資料収集活動等を行い、豊富収蔵庫は9月に燻蒸を行う予定です。

刊行物については、飛ノ台史跡公園博物館と合同で、『みゅーじあむ・船橋』9号・10号の刊行、平成28年度版の『郷土資料館年報』につきましては、印刷費の削減のため、ドキュメント印刷とし、ホームページにアップするなどして、広く公開していく予定です。

講師派遣につきましては、学芸員の小田・島崎が、それぞれ、図書館・公民館・市民大学などの事業で、講師を務めております。

外部団体との連携としては、木下まち育て塾や正伯塾への講師派遣などがあります。

調査研究活動としては、近世・近代文書の翻刻と研究、外部研究者との協力による土器に見られる圧痕の調査、角明丸の修復についての調査を行っております。

施設管理につきましては、消防訓練や建築基準法第12条の定期調査を予定しております。

以上、多々ございますが、郷土資料館としては、平成30年1月にリニューアルオープンすることが、一番大きな事業です。

○岡崎議長

続きまして、飛ノ台史跡公園博物館の方からお願いします。

○飛ノ台史跡公園博物館長

平成29年度飛ノ台史跡公園博物館の事業計画について申し上げます。

展示事業といたしまして、常設展は、通常通り2階で飛ノ台貝塚、3階で縄文時代の船橋の展示を引き続き行います。企画展①については、栗原補佐から申し上げたとおりです。企画展②については、例年行っております「縄文コンテンポラリー展」ですが、市制80周年ということもありますので、当館の所蔵資料からイメージしたアート作品や当館の空間や史跡公園を利用したアート作品、しかも船橋在住のアーティストや海神中学校の生徒さんなど船橋にゆかりのあるアーティストたちに展示をお願いしています。またワークショップの中では、船橋美術学院の方とタイアップして、また一般公募した古代米や玉ねぎの皮などの植物染料でハンカチを染めるワークショップなどを行い、染めたハンカチの一部を作品として展示するなどを計画しております。博物館でアート展をやることについては、物議があると思いますが、普段博物館に来ない方が来てくれるなどのメリットもありますので、今後も続けていきたいと考えております。

秋の企画展ですが、企画展としか書いておりませんが、文化課と協力して、取掛西貝塚を中心とした企画展を開催する予定です。また、縄文大学、考古学講座等で、取掛西貝塚についての事業を実施する予定です。

企画展④については、郷土資料館と協力して行っている小学校3年生の授業にあわせた

「くらしの道具展」を行います。この時期には、郷土資料館が薬円台に戻りますので、こちらの方で実施することになると思います。

企画展⑤は、海神中と合同で行っている「日本の美を今に活かした作品展」です。5月から当館の資料を使った連携授業を行います。合同展では、生徒たちが連携授業を行って、制作した陶芸作品や型染、ボックスアートを展示いたします。

2番目といたしまして、教育普及活動。先ほども述べましたが、「縄文大学」「考古学講座」については、文化課と協力して取掛西貝塚を中心として実施いたします。「バスで訪ねる博物館見学」については、5月27日に北区飛鳥山博物館、渋沢資料館を予定しています。受付はもう終了しておりますが、高齢の方が多く、バス見学会のあり方も変えていかなければならないのかな、と考えております。来年度は、こういった課題の中で考えていかなければと思っております。

ワークショップ活動については、例年通り、石の勾玉作りであるとか、どんぐりカレンダー作りなどを、土日、祝日、夏休み等の学校の休みの日を中心に年間140日ぐらい行います。

移動博物館については、学校に資料をお持ちし、展示・解説活動を行い、学校の近くの遺跡の紹介などを行います。こちらは、学校の要望によって、通年で行います。その他に、11月11日・12日に、総合教育センターで行われる教育フェスティバルに参加し、市内の遺跡や博物館の紹介やワークショップを実施するなどの、広報活動を行います。今年度は、郷土資料館も参加してもらい、一緒にやりたいと考えております。あまり手をかけないような形で、協力してPRができればと思います。

博学連携活動につきましては、教育課程に基づく博物館見学を4月・5月に20校受け入れます。こちらは展示解説ボランティアの方にも協力していただいております。中学校では、職場体験を受け入れております。例年10校程度です。あと、先程申し上げたとおり、海神中学校美術科の授業を連携して行っています。

収蔵関係としては、なかなか進みませんが、飛ノ台貝塚1・2次の資料の登録を行っております。

刊行物といたしましては、郷土資料館と合同で、『みゅーじあむ・船橋』を年2回、『博物館紀要』第14号の刊行、『とびのだい博物館てちょう』『ガイドマップ』の発行を予定しております。

その他としては、消防訓練や建築基準法第12条に基づく定期調査を予定しております。

○岡崎議長

郷土資料館の方は、展示リニューアル、飛ノ台の方はいろいろな事業をやっていくようですが、先生方の方から何かご意見はありませんか。

○中田委員

郷土資料館の方ですが、小川館長にもお話したことがありますが、船に関わる展示で、船の模型を展示したらどうかと提案いたしました。これが事業計画の中に全然のっていない

のですが、船橋にお住まいの 70 分の 1 の模型を作られる方がいて、かなり精度の高いものです。今、船の科学館で展示されており、展示ケースの中に 200 隻ぐらいありまして、江戸和船です。江戸時代の町並みがあり、とても精巧にできているのに、なぜ船橋でやらないのかな、とっていました。小川館長には、話をしているのですが、それはどうなっていますか。

○郷土資料館長補佐

申し訳ございません。私の方では、細かいことがわからないのです。後ほどお話いたしますが、リニューアルの展示の中では、入っておりません。船としては、寄贈を受けた角明丸を何とかできないかと考えておりまして、今、調査を行っております。

○中田委員

船の科学館では、2 階ロビーで、年 2 回常設の展示をやっております、海洋大学で 5 月にやり、浦安の博物館、関宿の博物館でも取り上げられております。せっかく、芝山にお住まいの船橋の住民が作っているのだから、ぜひ、展示いただきたいと思います。それが 1 点と、さきほどお話がありました「西部地区の今昔」のアルバムの件ですが、刊行物に使った写真と同じ写真を西図書館での展示に使ったということですが、違う写真を使った方が良かったと思いますが。なおかつ、前の学芸員さんにも申し上げたのですが、例えば西部地区の住民に話を聞いて、こちらの写真の方がいいよとか、これはこういうことでこっちを使った方がいいよというアドバイスができたのです。ところが、こちらの学芸員さんの考えだけで、ただ、写真のアルバムを作りましたよと、これが作られたのです。小栗原小学校の正門がでておりますが、西部地区で、まず頭に浮かぶのは、葛飾小学校なんですね。葛飾小学校は歴史がかなりあります。小栗原小学校は昭和 27 年開校ですが、葛飾小学校は明治ですから。そういうアドバイスができるのですが、そういうことを何も聞かれないまま、これが作られてしまったのです。ただ、写真のアルバムを作りましたよ、ということで。これは、ちょいちょいでるものではないので、できるだけ一般の人の考えも入れて、作られれば良かったと思います。それは、今後の問題となりますが。

○郷土資料館長補佐

他の地区についても、今昔写真集を作って欲しいという要望もありますので、このことにつきましては、今後の課題とさせていただきたいと思います。ただ、今回につきましては、船橋市西部の範囲を、昭和 12 年市制施行以前の、葛飾町・塚田村・法典村であった地域として、満遍なく写真を選びました。地域の方たちのご意見を聞く時間的な余裕がなかったため、このようなことになりました。今後は、時間をかけて、お話を伺うなどの工夫をしたいと思います。

○中田委員

時間がなかったということはなかったと思います。僕のアルバム十何冊をこちらに持って

きたのは、半年前です。そしていざ蓋をあけてみたら、こういうことになっていた。時間がなかったということはないと思いますが。

○岡崎議長

まあ、これからは、綿密に計画をたてて、検討なさせて、やられていったらよいのではないかと思います。他に何かありますか。

○日塔委員

郷土資料館の企画展の②。市民参加型展示ということですが、これは新しい展示ですね。やり方としては、市民対象にアンケートや聞き取り調査を実施し、とありますが、どのような形で、アンケートや住民の方、市民の方から意見を集めるのでしょうか。資料のあるかないかによっても実施するのが難しいのではないのでしょうか。

○郷土資料館長補佐

こういったことも時間をかけて行わなければならないと思いますが、飛ノ台史跡公園博物館に来られる方や、講座や企画展、出張展示に来られた方、広報でのご協力をお願いするという形で、アンケートや聞き取りを行いたいと考えております。

○日塔委員

幅広い方になりますね。集計するのが大変ではないですか。新しい手法の企画展かとは、思います。

○郷土資料館長補佐

工夫をして、なるべく多くの方のご意見を取り入れたいと思っております。

○岡崎議長

これは、博物館の企画展としては、新しい形かと思しますので、郷土資料館の方から、途中経過を出していただいてみたらいかがでしょうか。他の先生何かありますか。

○日塔委員

これに限らず、企画展をするにあたり、どのようなことをやっていったら良いのか、市民の意見を伺うということもやらなければいけないと思います。

○木原委員

市民参加型展示についてですが、市民の参加の形というのは、全面的なものなのか、内部的なものなのか、表に出る形なのか、データをとるだけなのか、そこらへんについてはどうですか。最近、やらなくなりましたが、市民が探してきたお宝を展示するようなものなのか、自分たちで企画して、自分たちで展示するものなのか。学芸員を体験してみよう的なもの

のなのか。いろいろな見方があるかと思いますが、こちらとしては、目的というか目標はあるのかどうか。

○郷土資料館長補佐

市民がお持ちの歴史的な資料は、代替わりするときに捨てられてしまったりするわけですね。そういった情報を集めるということも1つの目的です。また、アンケートの結果に関連する資料を個人個人がお持ちのもの含めて探し、見直していこうということで、学芸員を体験しようというタイプのものではございません。

○木原委員

言ってみれば、埋もれているものを、発見しようという感じでしょうか。

○郷土資料館長補佐

そうです。

○木原委員

それは、いい機会ですね。やり方によっては、差が出てくるのでやるとなると大変なことです。博物館側の力を問われるところなので、それはそれで大変だと思います。その辺はよろしくお願いします。それと、もう一つ、やっと角明丸が動きだしそうですが、具体的な予定はどうですか。なかなかブルーシートが剥がれないもので。

○郷土資料館長補佐

実は今、難航しているところです。郷土資料館の今回の工事の前に、豊富収蔵庫の脇に動かしました。ずっとそのまま置いてありましたが、湾岸の方に環境学習館が今年できますが、そちらの方に展示できないかなということを考えておりました。実際、環境学習館は、間もなくできてしまうので展示には至りませんでした。このまま、豊富収蔵庫の脇に置いておくよりは、海に近い場所に展示できれば良いわけですし、まずは状況の確認と修理の方法を考えようと思い、日塔先生にもご協力いただきました。ブルーシートを剥がすとかなり傷んだ状況でした。何とか直せないかなと思い、和船の船大工さんの情報をお持ちの方に、あちこちに連絡をとり、探しているところです。なかなか、もう、船大工さんは高齢化していらっしゃる。南房総市の方が修理をやっていらっしゃるという聞き、連絡をとりましたが、80代半ばの方で、地元の漁師さんから頼まれればやるけれど、南房総市から船橋市まで来てというのは無理ということでした。放っておけばますます傷んでしまいますので、直したいのですが、壊れた電化製品を直すようにはいかないというのが今の状況です。変な言い方ですが、修理するのに、金額的にいくらかかるのかということも、わからないといったところです。なかなか見通しはつかないのですが、日塔先生のご指導を受けながら、進めていきたいと考えているところです。もし、ご覧になりたければ、豊富収蔵庫でブルーシートがとれた状態でありますのでご覧ください。

○木原委員

少しでも良い形で保存できるといいですね。

○日塔委員

よろしいでしょうか。角明丸の調査に参加させていただきましたが、なぜ、私が参加したかと申しますと、東京の夢の島にある第五福竜丸がかなり傷んだ状態でありまして、それを解体修理いたしました。船大工に関わる資料や、造船の戦前の資料がありまして、それを読み込みまして、何とか修理ができた状態でその大修理をしてから、30年近く経ちますので、今、第2回目の修理をどうやってやるかというところで、船大工の話が出てくるわけですね。角明丸は、東京湾で漁をやった船の中では、大きい方です。小さな船だったらお年寄りでもできますが、角明丸は和船としては、本格的な作りではあります。私の情報から、江東区の方で和船の維持をやっている方がいて、その中ではアメリカ人が日本の和船の作りについては一番詳しく、しかもできる船大工なんです。他の地域でも、そこに頼んでいるところがありますので、船橋でも頼んだらいかがでしょうか。いつの間にか、船大工は日本人ではなくて、アメリカ人にとって代られる。角明丸そのものは、20年ぐらい、シートがグルグル巻きになって相当蒸して腐りが生じていたかと思っておりましたが、そうでもなかった。今回、運ぶときに、2点で吊って、自動車に乗せて運んだということであれば、構造は大丈夫ですね。構造がだめになっていたら、あちこちにきしみが出て、別な運び方をしなければなりません。2点で運べたということは構造的に大丈夫だな、と。あとは、詳細は、どれだけ腐っているかということで、これは、目で見ただけではだめですね。どれぐらい腐っているかを調べるには、千枚通しとか叩いてみるとかで、表面で見ただけでは、わかりません。一応、そこまでさせていただいて、これは思ったよりも、状況はいいなと思いました。海に浮かべることは考えないで、野外展示にして、屋根は必ず作って、壁はできるだけ作らないでということで、報告書にしてまとめてありますので、それをご覧になれば、保存の考え方が書いてあります。現状の状態も記録してあります。以上です。

○中田委員

和船の件ですが、先ほど話した和船の方ですが、大工さんと接触して、いろいろ調べた上で、和船を作られている。

○日塔委員

本当の和船の船大工さんではないのですか。

○中田委員

ええ。羽田の港の漁師の町にいた。この人はかなり詳しいですけども、そういう人に聞いてみるのもいいかもしれない。

○岡崎議長

他にありませんか？

○高橋委員

郷土資料館の方に、お訊ねしたいのですが、学校側としては移動博物館をやっていただきまして、ありがたいと思っております。特に写真などは、大変助かっております。11月からお忙しくなるのはわかるのですが、確認ですが、貴重な資料なので、持ち運びについては、要望があれば、郷土資料館の方で持ってきて下さるのですか。

○郷土資料館長補佐

11月からは、資料の貸出という形で対応させていただきたいと考えております。持ち出しについては、学校側の方にお願いしたいと考えております。

○高橋委員

できればですが、学校には公用車がないので、できれば持ってきていただけると助かります。人（職員）がいなければ、仕方がないですが。

次に飛ノ台の方に質問があります。計画の中に、野外展示ということで、郷土資料館は蒸気機関車がありますが、飛ノ台も野外展示ということで、あると思いますが、書いておりませんが。これは、何か理由があるのでしょうか。

○飛ノ台史跡公園博物館長

史跡公園の一部でございますので。展示ということが必要であれば、屋外展示の1つとして、入れて参ります。

○高橋委員

木原先生から質問がありました市民参加型展示ですが、いろいろな形がありますが、先程、市民が企画して展示する形ではないという補佐の説明がありました。今年度からではなくていいのですが、生涯学習の流れから、最終的には市民の人たちが実際は自分たちでやっていくような知の循環ということをおっしゃっておりますが、はじめは市の人が入って資料を集める、次はおじいちゃんやおばあちゃんから聞き取りをして、それをキャプションに入れるというように、だんだん進めていき、最終的には市民が自分たちで企画することをバックアップできるように進めればいいのか、まあ、理想だと思います。

○岡崎議長

他に何かありますか。

○中田委員

下総中山駅のジオラマの件ですが。これは平成26年の3月に鈴木さんから船橋市へ寄贈

されました。西部公民館の方へ展示したのが平成 27 年です。現在も西部公民館の方で展示してありますが、地域の人たちに聞いても、下総中山駅ジオラマは西部地区にあった方がよいという意見がほとんどです。

どういうことかと言えば、例えば、普段は自治会の行事をやり、選挙の時は投票所にもなるので普段公民館に来ていない人たちも来て見られています。現在は、ジオラマの脇にパネルが 3 枚展示してあって、3 か月か 4 か月に 1 回、写真を変えながら今昔写真展をやっています。これが非常に好評だということがありまして、ぜひ、そういうものを展示していただけないかなど。J R の下総中山駅長も非常に協力的で、地域の活性化につながるのであればと、平成 27 年 4 月から、J R 下総中山駅と西船橋駅にポスターを貼っています。約 2 年間、現在も貼っています。外されることはないと思いますので。そういったことで、何とか西部地区に展示しておくようなことを検討していただけないかと思います。

○郷土資料館長補佐

地元で展示を続けてほしいという声が寄せられていることは、承知しております。ただ、問題となりますのが、期間を限定せず、ずっと西部公民館に展示しておくことができるかどうかということがあります。

○中田委員

郷土資料館長と公民館長で話し合えばいい。

○郷土資料館長補佐

期間限定ではなくて、何月から何月までということになるかもしれませんし、ずっとということが出来るかどうか、展示施設側の了承が必要になります。また、素晴らしい作品なので、他の地域の方に見ていただきたいという気持ちもあります。

○中田委員

おととい、西部公民館長に会ったときは、地域の方のご要望があればとおっしゃっていましたよ。それと、郷土資料館にある時と、西部公民館にある時では、来られる方が全然違います。郷土資料館では、郷土資料館を見に来る。場所もロビーに置いてあるのですね。そこらへんが全然違う。

○郷土資料館長補佐

わかりました。

○岡崎議長

前からの話ですね。ひとつよろしくお考え下さい。

○日塔委員

これからご説明あるかもしれませんが、リニューアルの資料1つのテーマとして「鉄道網の発達」があり、写真のところに下総中山駅のジオラマがあります。これも関係しておりますね。こちら（郷土資料館）に展示してあると、来られた多くの方が見ることができますが、西部公民館での展示となりますと、限られた地域の人しか見られなくなるのではないのでしょうか。船橋全体の市民が見ることはできなくなりますね。こちらでの展示を主にして、あちこちに移動できれば、そういったことも解決できるのかなと思います。

○郷土資料館長補佐

話は前後しますが、こちらの資料は、プロポーザルで展示業者が提案を受けた内容です。こういうものを入れた提案をして下さいと仕様書にうたっておりまして、展示資料も私どもの方でリストを作っており、そのリストの中に下総中山駅のジオラマを入れておりました。そのリストから2階の近現代の展示の大きなテーマ「鉄道網の発達」の中の展示資料としてトータルメディア開発研究所という展示業者が選んで、下総中山駅のジオラマを入れているわけです。それに代わるものがあれば、話は違ってくると思います。今回のプロポーザルを行うにあたっての仕様書の中には、展示を変え易い設計にするようにしてあります。今回のリニューアルで10年変わりませんということではなくて、時々展示替えができるような仕様としておりました。ただ、問題となりますのが、今回、郷土資料館から西部公民館に下総中山駅ジオラマを搬送した時に、実際のところ、美術搬送車を仕立てて運ばなければいけなかったということがありました。

○飛ノ台史跡公園博物館長（前郷土資料館長補佐）

美術搬送するのに、数十万円かかりました。ガラス屋さんにガラスケースの蓋をあけてもらい、運送業者さんに運んでもらいました。ですから、簡単にこっちからあっちという移動は難しいと考えております。

○日塔委員

今回展示するにあたって、ガラスをもっと違うものに変更するとか、運びやすいものに変更することはできないでしょうか。

○中田委員

（図面は）これは、今のガラスの展示ケースと違うようですが。

○日塔委員

そうですね。

○中田委員

ケースに入っていない。アクリルで囲っているようですね。

○日塔委員

そうですね。蓋がないのかな。

○郷土資料館長補佐

これはイメージ図なので、この通りとは限りません。流れはこのような感じですが、壁面や床面の色目とかはひとつひとつ、建築課、展示業者、建設会社と話をしながら進めているところで、展示する資料については職員で分担を決めて、精査し、最終決定するところまで、進めていっています。

○日塔委員

新しくできた西図書館には、置けないでしょうか。

○郷土資料館長補佐

2階のギャラリーに置けるかな。下総中山駅ジオラマの大きさは2m10cm×90cmあり、回りに人が来て見られる広さが必要です。また、これを平らに運ばなければなりませんので。

○岡崎議長

この件につきましては、いろいろな案が出ましたが、今後、さらに検討して下さい。

それでは、議題3の平成29年2月10日から5月11日までの両館の事業実績に移ります。これについて、それでは、まず郷土資料館から。

○郷土資料館長補佐

展示事業については、休館中につき実施しておりません。野外展示はSLを日曜日のみ公開しております。2月～4月までで、合計11日、延べ422名の方が見学されています。ボランティアさんによる解説や整備を行っていただいております。

館外展示は、「下総中山駅ジオラマ」を西部公民館にて公開中です。企画展としては、前回の協議会でも申し上げましたが、「くらしの道具展 一道具が語るくらしの歴史ー」を飛ノ台史跡公園博物館の1階ギャラリーにて共催で行いました。会期中の観覧者数は2,183名です。出張展示としては、写真展「西部地区の今昔」を西図書館と共催で、西図書館の2階ギャラリーで実施しました。ご存知かと思いますが、西図書館は、3.11の大震災で壊れてしまい、新しく西船橋駅の東側線路沿いにできた施設で、2階にギャラリーがございます。こちらの方で実施いたしましたが、アンケート結果では、概ね良い評価をいただいております。4月15日には、当館の職員の小田が展示関連の講演会を行いました。参加者は22名でした。展示してある写真の解説ではないので、ちょっと驚いたが、西部地区にどんな文人が来たのかというような内容で、初めて聞いたというご感想もいただきました。

博学連携事業としては、小学3年生の授業に合わせて、七輪・氷冷蔵庫・炭火アイロン・羽釜などを学校に持参し、職員が解説を行いました。5校実施いたしました。綿繰り機で綿の種を分ける体験や、播鉢でゴマをするなどの体験をやらしてもらいました。今の生徒さんた

ちは播鉢でゴマをすったことが全くないので大変好評でした。

資料の貸借・資料閲覧につきましては、表のとおりです。他の博物館の企画展のための貸出が2件あります。1件は、浦安市郷土博物館にイカトリアミを現在開催中の「東京湾のイカ網漁」に。もう1件はサントリー美術館に、市指定文化財の印内台遺跡で出土した瑞花双鳳五花鏡と梅花文鏡管及びそれぞれの複製模造品を貸し出しており、サントリー美術館「神の宝の玉手箱」展において展示されます。サントリー美術館のととてもきれいなチラシをお配りいたしました。

資料の閲覧につきましては、安川家文書や手塚先生の写真他の閲覧がありました。

資料の収集等につきましては、資料一覧のとおりです。

利用状況は、SLのみですが、2月から4月までで422名。

講師の派遣等としては、公民館の講座や新規採用職員研修の講師として、職員を派遣しております。

調査研究活動としては、市民からこのような資料があるので見ていただけないかという情報をいただき、印内・薬円台・高根台地区のお宅に伺いました。昭和10年代のガラス乾板や古写真と書類などの資料をお預かりいたしました。その他、学外の研究会に研究メンバーとしての参加などがありました。

その他としては、県内の資料保存や資料救済に係る会議への出席などがあります。

施設の点検としては、薬円台の本館にエレベーターが新設されましたが、まだ、使用しておりません。実際に引き渡される前までの、その間の点検を行っております。

リニューアルオープンに関しては、2月23日に「船橋市郷土資料館展示関連設備等作成業務委託」の第3回評価委員会を行い、プレゼンテーション審査を行いました。その結果、株式会社トータルメディア開発研究所が受託事業者となり、3月21日付で委託契約を締結し、3月27日に市長・副市長・教育長の前でプレゼンテーションを行いました。以上です。

○岡崎議長

それでは、飛ノ台史跡公園博物館お願いします。

○飛ノ台史跡公園博物館長

平成29年2月10日から5月11日までの飛ノ台史跡公園博物館の事業について申し上げます。常設展示につきましては、2階展示室が飛ノ台貝塚、3階展示室が縄文時代の船橋で変わりありません。華道連盟の協力による生け花展をロビーにて行っております。

企画展としては、1階ギャラリーで郷土資料館との共催で、「くらしの道具展 一道具が語るくらしの歴史」。こちらは、補佐が説明しましたので割愛します。

次に飛ノ台史跡公園博物館・海神中学校合同展「日本の美を今に活かした作品展」。こちらを2月26日から3月19日まで行いました。期間としては、19日間。1,764名の方に来ていただいております。その間、美術部員による展示解説を4回行いました。こちらにつきましては、アンケートがございますので、見ていただければと思います。

次に教育普及事業について移ります。ワークショップ事業として、2月に「エコクラフト

を使ったひな人形作り」、編布（あんぎん）、コースター作りなどを行っております。回数は9回で、参加者が437名となっております。3月はエコクラフトで作ろうカラフル昆虫バッジとフルーツ&バスケットなどで、12回行い参加者が92名です。4月は、エコクラフトを使ったこいのぼり作り、石を使った勾玉作りなどで、14回行い、参加者は299名でした。ひな人形やこいのぼりなど、時節にあった旬のものを行い、多くの方の参加の促進を図っております。

博学連携事業に移ります。教育課程に基づく学校利用は、「くらしの道具展」の見学のために、2月7日に行田東小学校、3月2日に船橋小学校の3年生が来館しております。4月以降、小学校6年生の縄文時代の学習にあわせた利用は、4月10校848名、5月11日までに3校316名が来館しております。今後としては、6月9日に習志野市の大久保小学校が最後になりますが、残り7校、計20校が来館する予定です。

次に利用状況に移らせていただきます。平成28年度の利用状況は、有料入館者が4,021名、無料入館者が8,264名、ワークショップ参加者が3,122名、講演会等の事業参加者が3,122名、公園利用者が5,304名、合計23,066名となっております。こちらにつきましては、下の方に推移がございます。1日平均としては、77.1人となっております。26年度、27年度のちょうど平均値ぐらいとなります。これで満足しているわけではありませんが、有料入館者を増やさなければならぬし、博学連携も行って、いろいろな形でいろいろなチャンネルをもって、これまで来たことがない方にまずは足を向けてもらうということを考えております。考古学という分野は地学や地質も関係しております。今年来られた富澤先生は、理科の先生ですのでワークショップにつきましては、理科の分野も取り入れたものを実施し、来たことがない方にも来ていただきたいと考えております。

その他刊行物としましては、『みゅーじあむ・船橋』vol.8、とびのだいてちょう、縄文学習ノート等を刊行しております。

○岡崎議長

90分もぎっちりやりまして、このあと、4番目にリニューアルの関係もございますので、ここで10分間休憩を入れたいのですが、いかがでしょうか。

では、次は3時40分からということでお願いします。

～10分間の休憩～

○岡崎議長

それでは時間となりましたので、4番目の議題に移ります。「郷土資料館のリニューアルについて」、これの報告をお願いいたします。

○郷土資料館長補佐

今、市役所の中の様々な分野で、競争入札ではなくプロポーザルという方式で様々な契約を行うようになっておりまして、今回、郷土資料館の展示リニューアルにおいても、金額の

みの競争ではなく、内容についての審査が入るこの方式を採用いたしました。書類審査、プレゼンテーション審査を経て、株式会社トータルメディア開発研究所が受託いたしました。現在、建物の耐震補強やバリアフリー化の工事を踏まえ、この、会社と展示内容について詰めているところです。

今回の展示リニューアルにあたって、私たちが留意したことは、郷土資料館は長い歴史がありますが、市民から古めかしい、暗くて怖い、入りづらいと言われておりました。今回、建築の方になりますが、新たにエレベーター、自動ドア、多目的トイレが設置されます。また、耐震補強をしっかりとやり、特徴的な屋根もとりはずし重量を軽くする工事も併せて行います。エレベーターは駐車場側につきます。ですから、見た目は少し変わります。

中の展示については、今まで、ガラス越しの対面式の展示でしたが、今回は子供たちにも見やすく、大人にも興味をもってもらえるような展示を考えております。一番大切なところとなりますが、市の教育大綱にある「ふるさと船橋への思いを育む」というところ、そのような施設を目指すようにプロポーザルの仕様書を作成いたしました。それを読み取っていただいて、トータルメディア開発研究所より出された提案書がこちらになります。こちらは全部ではありませんが、関連するところをお出ししました。1階は、ロビーで、今までは下総中山駅のジオラマや古瓦の展示をしておりました。今回は映像による館内案内や小さな図書コーナーなどもおいて、調べ学習などができるようなコーナーも作りました。福祉カウンターも作り、車椅子の方が来ても対応できるようにいたします。今までもD-51の説明などがありましたが、ミニ展示コーナーは引き続き作ります。

2階の方は、今までは通史的な展示と民具の展示、小企画展示室となっております。こちらは大幅に変わります。エレベーターを降りたところから、「船橋の歴史ガイド」 という大きな床面と壁面の映像コーナーが設置されます。ここで船橋の歴史の世界へ心の切りかえができるような映像展示となります。床面には船橋市の5千分の1ぐらいの映像を映し出して、例えば、どこに縄文時代の遺跡があるかという内容が出ると、壁面には縄文時代の土器の映像が映しだされるようになります。そこを過ぎると旧石器時代から始まる通史展示となりますが、今回は考古学的な資料の展示は、お客様からの意見として、郷土資料館と飛ノ台史跡公園博物館の違いをはっきりさせるということがあり、飛ノ台が縄文時代の考古学を中心とした展示なので、郷土資料館がそれ以外の時代を厚くするということになり、考古を削る形になりました。今までの資料館の展示では、ガラスがあって、遠くに資料が見えるという形でしたが、もっと間近に見ることができる展示手法をとりたいと考えております。今、盛んにそこら辺のところを、協議しているところです。2階展示では、通史展示に関連した3つテーマ展示を考えております。「船橋と馬」、「鉄道網の発達」、「都市の発展」の3つです。これらの展示も含めて、近代、現代の展示を厚くしていきたいと考えています。今までは近現代が薄かった感じがありますが、今回は厚くしていきます。「船橋と馬」に関しては、ピンとこない方もいらっしゃるかと思いますが、私ども、埋蔵文化財調査事務所で発掘調査を行っておりますと、古代、中世、近世の馬の骨が多数出てきますし、江戸時代には幕府の官牧の下野牧がありました。明治時代になると、まさに、郷土資料館のあるあたりには、習志野騎兵学校、騎兵連隊があり、現在でも中山競馬場、船橋競馬場と2つも競馬場

があります。石造物では、馬頭観音が多数ありますし、馬との関係は非常に深い土地柄です。また、船橋市内には多数の鉄道路線が通っておりまして、都市化の背景にはすごく大きな役割を果たしております。鉄道というのは、非常に人気のあるものですね。ですから、下総中山駅ジオラマの人気があるのは、もっともだな、と思います。「都市の発展」というところでは、戦後、東京のベッドタウンとして他の地域からも移り住んで来られる方が増えて、首都圏有数の都市として、現在、人口 63 万人を抱える市となりましたので、その都市としての発展の過程を展示いたします。

2 階のゾーニングですが、パーテーションで分けるようにして、床面や壁面の色を変え、雰囲気も変えて、通史展示とテーマ展示を組み合わせるようにしております。このように、2 階展示室が大幅に変わるところです。

今の子どもたちは、ただモノが並んでいるだけでは感動しない、物足りないということもありまして、映像関係については、広報課や視聴覚センターから画像や映像をお借りしたり、当館で所蔵しているものについてもセレクトしたりして、作っているところです。

2 階については、固定化しないように、時々、展示替えができるように、展示ケースも考えているところです。2 階については、この提案書のように考えておりますが、細かいところは、変えなければいけないところも出てきます。例えば、最初の床面と壁面の映像では、まったく異なるような映像を考えておりましたが、お客様がどこを見ていいのかわからなくなると思われたので、関連のある映像を映すことに変えました。

今回の目玉となる展示と考えているのが、市内の遺跡で出土した馬骨から復元した模型です。時代は中世で、今のサラブレッドよりもずっと小型です。後ろの方に現在のサラブレッドのシルエットを配置し、前の方に中世馬の復元模型を置いて大きさの比較ができるようにします。市内の遺跡の発掘調査をしておりますと、多くの馬が出土しております。船橋市は、調査件数が非常に多く、発掘調査報告書も多く刊行されておりますので、考古資料につきましては、最近の調査の資料を多く展示したいと考えております。

3 階の方へ移ります。3 階では、今まで、写真展などを多くやっておりました。今度は、こちらを企画展示室にする予定ですが、東側に壁を作って「学習室」的なものを作ろうと考えております。企画展示室と学習室です。学習室では、大人の人だったら 20 名ぐらいの人を対象とした講座やワークショップを考えております。企画展示室では、細かい仕切りは作らないで、バナーのようなものを吊るすことができるようにいたします。こちら、場合によっては、講座室にもなりますし、多目的に使えるようにいたします。28 年度事業計画の企画展①と②を、市制 80 周年記念企画展の写真展と市民参加型展示をこちらの展示室で実施する予定です。小さな学習室ができますが、こちらでは、講座などのほかに、船橋市に関連する映像を流したりもする予定です。

こうやって見るとすごく大幅に変わるという感じがいたしますが、全くこのとおりというわけでもございません。先生方のご指導を受けて参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○岡崎議長

私がこういうことを申し上げて良いかどうかわかりませんが、話しをしておいた方が良いでしょうと思います。郷土資料館を作るときの経緯ですね、どうして、そこに博物館を作ることになったのかを、現在の博物館を利用する方も知っておいた方が良くと思いますね。あそこに郷土資料館ができることになった最初のきっかけは、高郷小学校の建設場所に、縄文時代中期の集落跡があって、それを金は出すから40日で掘れということで、我々調査団は40日で掘ったわけです。掘ったモノを当時の渡辺三郎市長が見て、これをどこか置くところがないか、これは大変重要なものだ、八幡一郎先生などの先生が入って、これは郷土資料館のようなものを作らなければならないということになり、渡辺市長が考えたのが、あそこに公民館を作る予定なので、そこに入らないか、合体させたらいいのではないかとということで、2階は資料館、3階は地域の公民館をあそこに作るということで理解をさせていただきました。それを今、皆さん方が一生懸命検討して、やっけていってらっしゃる。最初にできたときのその一部始終を私や地元の方がそれを見ておりました。ですから、それから始まった郷土資料館だということが私の中にはあります。そういう発想で出来上がったものですよ。これは皆さん方知らないことだと思います。あの時にいた人間とあの時に会議に関わった人間しかこれは知らないことですよ。そういう経緯で作りあがった郷土資料館だということを頭の端っこに置いて、ご検討いただければありがたいと。私はもう52年近くになりますが。市民の方々のご要望もあるでしょうが、考古学の関係と地元の関係とがあつたと。皆さん、そういうことを頭の端っこに置いて、ご検討いただければと思います。

先生方、何かリニューアルに関しましてありませんか。

○中田委員

先ほども申し上げましたが、下総中山駅のジオラマですが、西部公民館に展示したときの市民のアンケートに、少し高さを上げた方がいいと、そういったものは、完備されるのでしょうか。

○郷土資料館長補佐

展示するとなれば、展示を受託したトータルメディアの方で、展示台についても設計いたします。

○中田委員

せっかくアンケートをとられたので、生かしてもらえればと思います。

○日塔委員

大変ビジュアルに作られていると思います。これだけの展示内容ですと、展示作業が大変だと思うのですが、これは、資料館の職員の方で展示しなければならないということですか。

○郷土資料館長補佐

今展示内容についてつめておりますが、展示資料につきましては、1点1点職員が精査し

ているところです。契約上では、展示は、トータルメディアがやることになっています。

○日塔委員

そこまで契約に入っていますか。

○郷土資料館長補佐

資料によっては、私たちがやった方が良いものもありますので、それは、私たちがやります。展示内容はこれでいくよ、となりましたら、1点1点の大きさや取り扱いをどうしたら良いのか、例えば、エアタイトのケースじゃないと絶対ダメだとか、壁面にぶら下げるのでは絶対ダメだとか、契約条項の中に、適切な展示方法やケースを選ぶとなっておりますので。ただ、そのケースを制作して設置するとそのケースを変えられないので、使い続けるしかありませんので、ある程度汎用性のあるものを選びます。

○日塔委員

先ほど、展示替えをすと言いましたが、展示替えもトータルメディアが受託するのですか。

○郷土資料館長補佐

いえ、それは違います。自分たちがやるようになります。

○日塔委員

できるのですか。大変だと思いますが。

○郷土資料館長補佐

オープン後しばらくは大々的にはできないと思いますが。小さな展示替えでは、展示パネルを外注に出すとかですね。あとは、資料を少しずつ変えていくとかですね。3階の方が企画展示室になりますので。展示は企画によって変わります。

○日塔委員

それは、資料館の方でということですね。

○郷土資料館長補佐

飛ノ台では1階のギャラリーで色々なことをやりますが、それが、郷土資料館では、3階になるわけです。

○日塔委員

2階では、パーティションで部屋をふたつに区切りますが、狭くないですか。このイラストで見ると、狭く見えますが。

○郷土資料館長補佐

ちょっと狭い感じはあります。小学校の児童が1クラス、ワーツと来ると、混乱状態になるような気がします。2メートル以上あけないと、展示室としては厳しいので、テーマ展示の馬のコーナーに馬の骨というのがありますが、これは長い間、郷土資料館で展示していたものなのです。かなり風化が進み、痛みも激しくなっておりますし、すごく場所をとります。これを、今回の展示から外して、近年の発掘調査で出土した埋葬された馬がかなりありますので、パネル展示に変えようかと考えております。

○日塔委員

ここが狭いような感じがしていたので。あと、船橋という地名が、船を連ねて橋を造ったというところから来ているので、船橋は港に、漁港に関連している町だと私は思うのですが。牧については、他の市町村でも本格的な展示をしておりますので、発掘された馬というのは重要だと思いますが、牧についてはそれほど触れていないのですね。データがないのであれば、仕方がないのですが。

○郷土資料館長補佐

牧については、浮世絵ですとか、野馬執りの図など、西図書館の資料ですね。また、残された遺構、野馬土手とかですね。

○日塔委員

こうやってみると港のこと、船のこと、海のこと全然出てこないのが、ちょっとそれが。船橋という名称がついていて、どうなのかと思うのですが。実際にやるのは、大変な感じでしょうか。

○木原委員

中に入っていくのが、なかなか大変ですね。船橋の漁師は、船や漁で住み分けされて、限られているので、それぞれの所でこっちの漁師にこんな話は聞けないし、民俗調査をしてそう思いました。それを1つ残らず資料として確保するのは、難しいかと。先ほどの角明丸のこともそうですが。旧村を調査したわけではないのですが、船橋の場合は、けっこう複雑ですよ。ないのはさびしいですが、私もあってほしいのですが。

○日塔委員

船橋港の漁港としての位置というのは、市川や浦安と比べても、ここらへんでは一番大きいのでは。

○木原委員

そうですね。検見川とか幕張では、今、幕張の調査をしておりますが、船を持たないです

から。やっぱり船橋、行徳の方が、本格的です。他から見て、船橋の確立されている住み分けのようなことも含めて、改めて思い知ったのですが。

○日塔委員

東京湾を見ても、船橋漁港は大きな位置を占めていたのではないかと思います。

○郷土資料館長補佐

展示としては、映像の関係に入れていけるかと思います。映像の中に船橋の海岸線の変化や埋め立てについての部分がありますので、そこに港の様子、船溜まりの様子を入れていけるので、映像資料として入れていくのは可能です。

○日塔委員

映像資料としてカバーしていくということですね。

○郷土資料館長補佐

また、中世の船橋の港の存在を示した文献なども出てきますので、関連資料として出していくことは可能かと思います。

○中田委員

船橋地名の由来は出てこないのですか。

○郷土資料館長補佐

実物の展示の中では出てきませんが、映像の中には入れていきます。2階の一番最初の映像展示で、この業者さんが言うには、通史の展示で一番古い時代の旧石器から始まると、いきなり見たこともない石器がずらずら並んでいると、とっかかりが見つけにくいというわけなんですね。船橋ってどういうところなんだろうという疑問をもってもらう、頭を博物館モードに切り替えてもらうという発想らしいです。その中に撮影されたものですが、港であるとか、由来であるとかを入れてもらうことは可能かなと思います。

○岡崎議長

これから入れてもらうことは可能かどうかわかりませんが、船橋が船橋たる所以は地質学的にも証明されているのです。昔の地図等々を調べましたら、それを予定しているのですが、いろいろ問題がありまして、それともバッティングしないような形で。

それが1点、それともう1点、古作貝塚がございますね。あそこで溝が出たでしょう。あの溝は展示に使ってないでしょうね。

○郷土資料館長補佐

今回の展示では使っておりませんが、昔、私と道上補佐で道路遺構を調べたことがありま

す。その時はデータとして使いました。

○岡崎議長

第一次調査ね。厩舎を取り払って、その後調査をやったら、溝が出たことがあるでしょう。競馬場の連中が来て、これは古い時代の馬に関連する溝だと言ったので、ちょっとあったのですが、今現在、私が書いているところと言うと、縄文時代の溝ですよ。それで、馬とは全く関係ないですよ。そういうことが分かったので、もしそういう写真でもあって、お使いになるのであれば、やめていただいた方がいいかなと。

溝が3本ぐらい出ているのですが、中央競馬会の根岸の連中が来てやったんですが、そういうイメージ（新しい時代の遺構であるという）があって、あれは縄文じゃなくてと思ったら、縄文時代の住居があって、溝は住居を切っていないということ。それと宮本台貝塚の溝の貝層が全部縄文時代のものであるということがはっきりし、その溝も全部住居跡を切っていないということがありまして、海老ヶ作の溝は新しいのです。あれは縄文の遺構を切っていますから。そういうことがありまして、そういうことを連絡していただければと思ひまして。馬は印内台遺跡（1・2次）のものを使うのですか。

○郷土資料館長補佐

復元するのは、東中山台（本郷台遺跡4次）のもので。骨がきちんと揃って出ていますので、それを使います。写真をパネルで使うのは、最近の調査の例ですね。

○岡崎議長

印内台（1・2次）ででましたよね。馬が一体。それで、それを復元するかしないかというときに、中央競馬会で根岸の方に欲しいという話もあったのですよ。それをすぐさませめたのです。あれは、報告書には若干書いてあると思うのですが、根岸にとられちゃ、困るということ。

○高橋委員

ちょっといいですか。

○岡崎議長

はい、どうぞ。

○高橋委員

僕は学校でやっているからね。子供たちに教えると、明治だとか江戸の終わりぐらいね。船橋の町のところは、宿場町だとか、大神宮だとか、漁師だとかだけど、船橋の市域の北の方は台地で、牧だったり荒地だったりと思うわけです。そのあたりの様子も、各学校の近くの写真とか絵が、北のあたりも見せてもらいたいな、と。その両方、船橋の町の部分と村というか、荒地だと思うけれど、そういうところの写真とかがあれば。昔はうちの学校のとこ

ろはこうだったんだよということがわかれば、子供たちも身近に感じると思います。

○岡崎議長

高根公団と習志野のあたりは、あの地域は、全部開墾です。

○高橋委員

明治時代以前は、荒地だったとしても、実はこうだったということを教えてもらえば、いいと思います。

○岡崎議長

それは実に重要なところです。

○郷土資料館長補佐

今回のリニューアル展示では、市域全域を偏りがないようにご紹介しましょうと職員全員で承知しているところです。旧豊富村とか二宮町とかも合併する前の地域ももちろんのこと、町場だけではなく市域全体を入れていきたいと思います。どこにお住まいの方が来ても楽しめる形にしていきたいと考えております。考古資料に関しても、文化課であちこち調査しておりますが、調査件数については偏りがあるのですが、なるべくいろいろな地域の資料を偏りがないように、満遍なく、どこの学校が来ても、ああうちの近くだとわかるような展示を考えております。

○日塔委員

展示室は、狭いですよね。市域を満遍なくカバーしようと思うと、なかなか難しい。そういう時に展示替えでカバーしていただけると。

○岡崎議長

私が今、取掛西貝塚の国指定史跡ということイメージして考えているいろいろなことがあります。国指定となりますとね、資料館なり博物館なりを作らなければならない。そういう大きな、イメージをもっており、その中で郷土資料館や飛ノ台史跡公園博物館の位置づけも考えていかなければなりません。

○日塔委員

そうですか。

○岡崎議長

その他、何かありますか。

○文化課長補佐

お手元に「みんなで知ろう！船橋の遺跡マップ」をお配りしています。これは平成 28 年度の国庫補助金を受けましてやった事業でございます。平成 27 年度に第 1 版を出しまして、これよりももう少し詳しい説明をつけたもので、28 年度版は子供たちにも読めるように、文章の量を少し減らして、市内の 54 校の小学 6 年生、約 5,500 名おりますが、卒業式前に配りました。また今年度も、国庫補助を受けて、小学校 6 年生に配ります。

○高橋委員

3 月だと子供たちが卒業してしまうので、4 月に出して下さい。授業で使えるから。

○文化課長補佐

昨年度は、ぎりぎりになってしまいました。今年度は、早めにやります。

○岡崎議長

では、よろしいでしょうか。次回について、事務局お願いします。

○飛ノ台史跡公園博物館長代理

今回は、平成 29 年 10 月 6 日、金曜日、午後 2 時から飛ノ台史跡公園博物館で開催の予定です。1 か月前ぐらいになりましたら、書面にてお知らせいたします。本日はお忙しいところありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。